

奄美市笠利町の大
島北高校(新納雅樹)

綱引きなどで団結力

交歓会「古北戦」、友情育む



綱引きでは、選手と応援団が団結して勝利を目指した(提供写真)

校長(生徒167人)と瀬戸内町の古仁屋高校(佐久間健士校長、生徒125人)による第9回交歓会「古北戦」が2日、

同市名瀬運動公園総合体育館であった。生徒達は綱引きなど4種目で競い合い、母校の団結力を強くする一方で、互いのプレーを労うなどして友情を深めた。

「古北戦」は、奄美大島の南北に位置する高校同士で、球技や応援を通し団結力を高め、切磋琢磨しながら交流を深めることが目的。両校のエル交換後、学

年別対抗の綱引きで熱戦の火ぶたが切られた。

綱引きでは、応援者が選手の近くまで駆け寄り、大きな声で声援。選手達も声援に応えようと、両足を踏ん張りながら握る綱に力を込めた。自校の選手が勝利すると、応援者も選手と抱き合って勝利を喜ぶ姿が見られた。

生徒達は綱引きのほか、男子バスケットボールや女子バレーボールの部活動対抗戦、今回から取り入れたフットサルでも白熱した試合を繰り広げた。

大島北高校の上原梨紗生徒会長は「初めてフットサルを取り入れたが、みんなの協力で盛り上がる事が出来た。選手を応援するこ

とで、今回また北高の絆が深まったと思う」と話し、古仁屋高校の緑武士生徒会長は「綱引きでは、声援を力に勝利できた。今回、古仁屋高校の団結力も強くなった。これからもお互い交流を続けていきたい」と語った。